

【活動レポート】8/7～9/3 ミラー財団 インターン@タイ・チェンライ



タイ・チェンライでインターンをしていた学生から、活動レポートが届きました。

この活動の詳細は、12月15日(木)6限開催の報告会で、聞くことができます。楽しみに！

(写真は、ミラー財団の Facebook ページからお借りしています。)

2016年8月7日～9月3日、タイ北部のチェンライ県で少数民族である山地民の支援をしている NGO でインターンしました。

ミラー財団では経済的な貧困、無国籍、就学困難という問題を抱えている山地民を国政取得キャンペーンやフェアトレード、エコツアーの実施、異文化教育の機会の提供などを通じて支援しています。外国人インターン生、ボランティアを世界中から受け入れており、私は今回団体 HP からコンタクトをとり受け入れてもらいました。

主な活動は山地民の子どもたちが通う小学校から高校で行っている日本語・日本文化クラスの担当です。日本語や日本文化に触れてもらうことで異文化理解の機会を提供するとともに、少数民族である自らの立場・文化を日本語・文化を学ぶことで相対化できるようになってもらいたいというのがこの活動の趣旨でした。英語圏やそのほかの国のインターン生は英語クラスや自分の国の文化の紹介を学校で行っていました。

今回参加してよかった点は今後の研究につながるテーマを見つけられたことと、日本人を含むインターン・ボランティアとの出会いがあったことです。学校に通う中で国家が行う国王・仏教教育の影響が子どもたちの描く絵から授業の内容に至るまで色濃く見られたことは印象的でした。ナイトバザールに行くと学校で教えていた子どもが働いている姿も考えさせられるものがありました。そして日本人もそれ以外のインターン・ボランティアもそれぞれの目的をもってこの NGO に来ていて、彼らの話を聞くのは単純に興味深いとともに勉強になりました。

一方で気になった点は異文化理解教育の意義です。日本語を教えるボランティアはこの NGO 以外にも多くありますが、山地民の子ども達へのクラスに関していえば彼らの根本的な問題を解決することにはつながっていないと感じました。異文化理解そのものは大事な学びですが、そこに重点を置きすぎると山地民の生活の向上という最終的な目標がぶれてしまうと思いました。外国人による国際協力のあり方や NGO の活動の内容はどうあるべきなのだろうと考え直すきっかけになりました。

多くの学びと人との出会いを得られた今回の経験を今後の学生生活につなげていきたいと思います。ありがとうございました。

国際社会学部東南アジア地域(タイ)青木美穂

日時: 2016年11月15日